

経営比較分析表（平成29年度決算）

佐賀県 武雄市

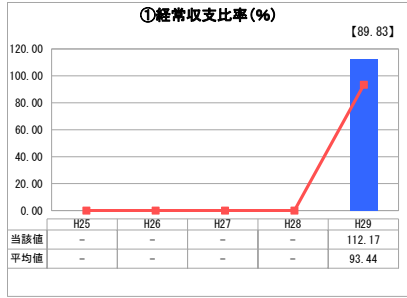
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	特定地域生活排水処理	K3	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	48.54	68.77	100.00	4,104

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
49,315	195.40	252.38
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
33,916	188.11	180.30

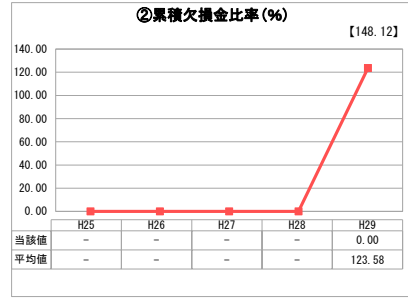
グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 平成29年度全国平均

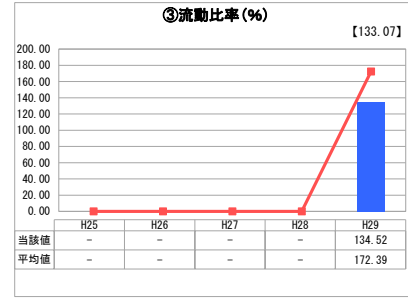
1. 経営の健全性・効率性



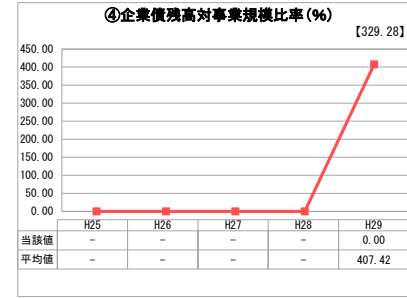
「経常損益」



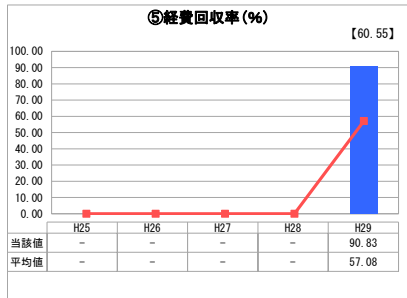
「累積欠損」



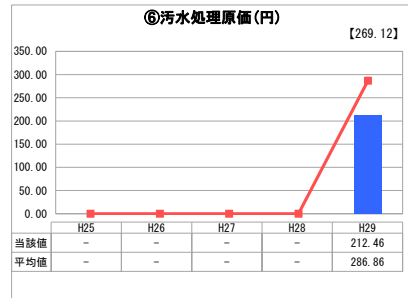
「支払能力」



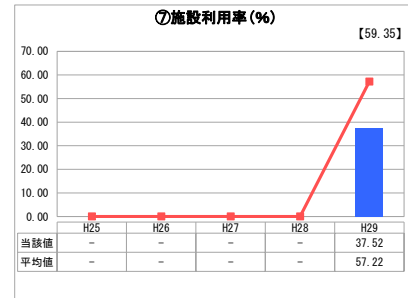
「債務残高」



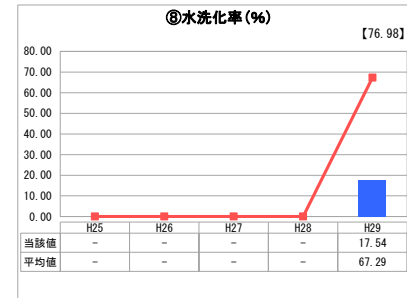
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

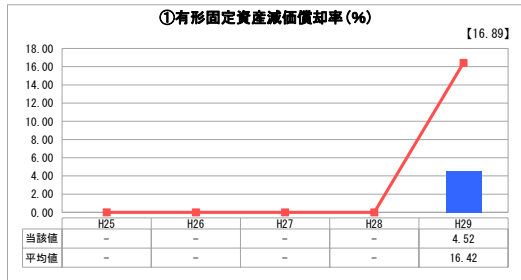


「施設の効率性」

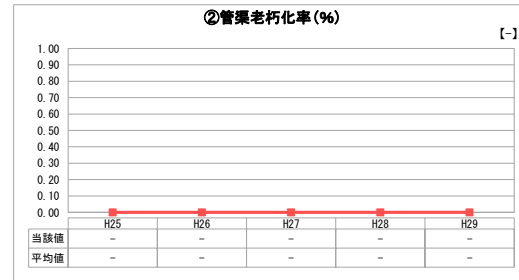


「使用料対象の捕捉」

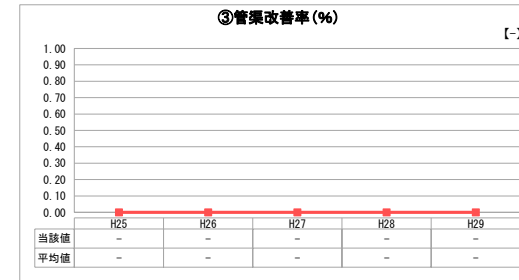
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

- ・「経常収支比率」は100%を超えており、類似団体と比しても良好と言える。
- ・「累積欠損比率」は0であるが、1基あたりの管理コストが収入より多くかかっており、将来に向けて検討する必要がある。
- ・「流動比率」は、企業債償還額が増加傾向にあるが、市の財政状況的に繰入が厳しくなることも考えられるため、将来に向けての検討が必要。
- ・「経費回収率」「汚水処理原価」は、類似団体と比較した場合は比較的良好と言えるが、1基あたりの管理コストが収入より多くかかっており、注意する必要がある。
- ・「水洗化率」については、現在整備推進中であり、健全経営が図れるよう、普及推進に努める必要がある。

2. 老朽化の状況について

当市の特定地域生活排水処理事業は、平成21年から開始しており、現在も整備推進中である。(計画期間～平成41年度)

「有形固定資産減価償却率」は、類似団体と比較してかなり低く、施設的には比較的新しいと言える。今後とも長寿命化を図りながら、適正管理に努める。

浄化槽本体の耐用年数は30年であることから、未だ老朽化には至っていない。

全体総括

平成29年度より公営企業法の適用を受け、分析初年度となるため、経年比較ができないが、類似団体と比較した場合、比較的良好な経営状態にあるといえる。
下水道事業の健全経営を継続できるよう、接続率の向上に努め、経営戦略に基づいた長期的な視点で分析検討を行っていくことが重要となる。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。
※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率、管渠老朽化率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。